

## 第3回旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会 会議録

---

日 時 令和7年1月30日（木）午後6時～午後7時

場 所 旭川市役所総合庁舎 4階 教育委員会室

出席者 委員10人

青山氏、浅野氏、石塚氏、薄井氏、大垣氏、佐々木氏、千葉氏、那須氏、矢ノ目氏、山中氏（50音順）

事務局9人

坂本学校教育部長、中瀬学校教育部次長、末木学校教育部次長、今適正配置担当課長、板東学校施設課長、山本学務課長、佐瀬学校保健課長、道下教育政策課主査、教育政策課 坂井

傍聴者 0人

資料 資料1 「旭川市立小・中学校適正配置計画（素案）」に対して寄せられた御意見と市教委の考え方  
資料2 旭川市立小・中学校適正配置計画（素案）からの変更点  
資料3 旭川市立小・中学校適正配置計画（案）

## 第3回旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会 次第

1 開 会

2 議 題

- (1) 旭川市立小・中学校適正配置計画（案）について
- (2) その他

3 閉 会

## 会議録（要旨）

### 1 開 会

### 2 議 題

#### （1）旭川市立小・中学校適正配置計画（案）について

進行役	旭川市立小・中学校適正配置計画（案）について、事務局から説明をお願いする。
事務局	（資料1～3に基づき説明）
進行役	資料に基づき事務局から説明があったが、まずは全体を通して御質問等あるか。（一同質問なし）
進行役	それでは、皆様方の御意見を伺いたい。
参加者	市全体のまちづくりは考えられているのか。自分の地域では、統合により中学校の通学区域が中央中学校となってから地域に居住する子どもが激減したが、学校を統合した後の地域住民への影響については考慮されているのかと思う。西地区では聖園中学校がなくなり、盆踊りがなくなるなど地域活動が衰退した。中心部の学校を統合して通学区域を大きくすると、市内中心部に子育て世帯が住まなくなる。コンパクトシティにしたいのかドーナツ化させたいのか、街全体をどうしたいのか見えないので、まちづくりと運動させて適正配置を考えるべきだと思う。今後は地域や旭川市の将来を考えて計画を考えてほしいと思う。
参加者	自分の住む地域は日章小学校の通学区域だが、買物公園から西側が日章小学校、買物公園から東側は知新小学校の通学区域である。旭川市が掲げている中心市街地活性化では、北彩都地区の開発を謳っており、マンションも建設されているので知新小学校は児童数が増えたと思うが、日章小学校の通学区域では高齢化が進んでいる。日章小学校の通学区域には大型商業施設やさんろく街があり、子育て世帯が住もうとしても家賃が高いなど見合った条件や土地がない状況で、子育て世帯の流入は難しく、人口は減少してしまっているのが現状だと思う。
進行役	まちづくりの全体像を旭川市として踏まえ、適正配置を検討していく必要があるという意見だった。パブリックコメントや説明会でも意見が寄せられ、教育委員会の考えが示されているが、意見はないか。
参加者	山梨県では数年前から、1クラスの人数を25人とする少人数学級を進め、最初は1年生の少人数学級からスタートし、次の年からは学年を拡大して実施したという報道があった。自分は小規模校があってもいいと思うので、教員採用数が増えるなど課題があるのかもしれないが、少人数学級を検討してはと思う。
参加者	少人数学級も良いが、将来的に子どもの数が減っていくことが分かっているので、市内中心部に小学校と中学校を数校設置して、バスで通学することとしてはどうか。少人数を希望する子どもは少人数の学校への入学を、大人数の学校を希望する子どもは大人数の学校への入学を臨機応変に認める、旭川独自のプランを新たに持つたら良いのではないかと思う。駅から近いと市内どこからでも通いやすいと思うし、学校が分散していると費用がかかるので、市内から皆が通える学校とすることで、コストダウンすることも検討してはどうか。
参加者	パブリックコメントでは、小学校を統合した際の、通学時の子どもの安全を心配する保護者の意見があったので、通学路の整備などを統廃合の説明会の際に説明できれば、統廃合に賛成する意見が増えるのではないかと思った。
参加者	この計画（案）では、市内中心部の小学校が統廃合の対象となっているが、市内中心部は再開発が進んでいない地域であり、統廃合に関してはまちづくりの総合的な観点からも考える必要があるので、いろいろな方々と連携して進めていくと良いと思った。
参加者	資料にあるが、説明会での御意見の中で、聖園中学校の統廃合の際、町内会会長との協議のみで統廃合が決定したとあるが、地域の理解は必要であり、そのように決定することは望ましくないと思う。
参加者	聖園中学校の統廃合の際、自分も関わっていたが、教育委員会では、市民委員会会長に了解を得たことをもって地域の意見を確認したという認識だった。地域では1か月で1万票の反対署名を集めたが、強引に統廃合を進められたので、地域としては今も心の傷になっている。

	<p>新町小学校や青雲小学校の児童数が減少したのは、聖園中学校が統廃合になったからだと思う。統廃合に当たっては、まちづくりを考えた対応をお願いしたいし、地域に禍根を残さないよう考えてほしい。</p>
参加者	<p>パブリックコメントや説明会でいろいろな御意見があつたが、学校のことだけでなく旭川市全体のことを考えると難しい問題と思う。特別支援教育の観点からは、特別な支援を必要とする児童生徒にきめ細かな対応を行う場合もあるが、インクルーシブ教育で通常学級の中に入っていく場合もある。教員配置に関係してくることだが、国の配置基準が変わるなどきめ細かな職員配置がされるようになれば良いと考えている。</p>
進行役	<p>インクルーシブ教育を考えたときに、特別支援学級の児童生徒が、通常学級との交流の中で社会性を育んでいくことも必要であり、そういった部分についても議論をしていく必要があるということと思う。</p>
参加者	<p>適正配置計画とまちづくりが連動していくことは難しいかもしれないが、これから旭川市のためにには必要なことと思う。これから、小学校と中学校だけでなく、幼稚園から大学までをセットとしてまちづくりを考えていくこともあるかもしれない。</p>
	<p>今回の改訂では、台場小学校が児童養護施設近隣校であるため統廃合対象校ではなくなり、江丹別小中学校は複数学年の欠学年が解消するため、統廃合対象校ではなくなるとのことで、特殊事情がある学校や移住により子どもが増えたことにより学校が存続するということだと思う。</p>
	<p>旭川市でも、親のどちらかが外国人の子どもが在籍するなど、児童生徒が多様化しており、小さい規模、大きい規模どちらも希望する子どもがいると思うので、旭川市の学校のあり方も、多様性に富んだ学校を目指してはと思うし、子どもたちの多様化に伴って学校も変わらなければならぬと思う。まちづくりと連動して、どんな学校が良いのか考えていく時期に来ているのではないか。</p>
参加者	<p>旭川市小・中学校適正配置計画は平成27年に策定し、15年間という長い期間の計画であり、社会変化が著しく、10年前とは状況が変わってきていると思う。台場小学校に勤務した経験があるが、当時から地域や保護者には様々な意見があり、台場小学校が統廃合になると困るという児童養護施設の意見のほか、地域の中には児童が多くの人と交流する機会を望んでいる方もいたので、パブリックコメントの意見を読んで、全ての意見を叶えることは難しいと思った。</p>
	<p>また、特認校は自然豊かなところで学びたいという子どもが多かったので郊外にあるが、バリエーションがあることは大切だと思うので、今後はまちなかの特認校や義務教育学校、小中一貫校などもあって良いのではないか。また、中央中学校に統合した聖園中学校のように、通学距離が遠い場合もあると思うので、通学区域は柔軟に考える必要があるのではと思う。</p>
参加者	<p>まちづくりを合わせて考えるなら、特認校についても考えていく必要があり、交通の利便性がポイントであると考えている。旭川市立大学は私立大学から公立になったが、中心部から遠く、スクールバスもないで立地に難点がある。交通の便が良いのはまちなかであり、特認校として郊外の学校もまちなかも選ぶことができるのも、多様性への配慮である。</p>
	<p>児童生徒数が減少するから適正配置を考えるという計画だが、少子化が進んでしまうとそれでは遅いと思うので、子どもが減少する前に学校を設置するなど、積極的な考え方も必要ではないか。子育て環境が充実している近隣町の仕掛けも参考になるのではと思う。</p>
進行役	<p>いろいろなニーズを踏まえて、積極的に学校の配置について考える必要があるという御意見であった。</p>
	<p>参加者の皆さんから幅広い観点から御意見をいただいた。子どもの学びの保障、いかに子どもたちの学びを支えていくかについて、共通の認識の中で議論ができたと思う。</p>

## (2) その他

進行役	その他、事務局から説明はあるか。
事務局	計画改訂について、今後の予定は、本日皆さんにいただいた御意見も踏まえ、最終的な改訂案をまとめ、3月末の教育委員会会議で決定する予定であり、決定次第、ホームページ等で公表

する。

## 6 閉会

進行役

懇談会の閉会に当たって、坂本学校教育部長から挨拶を行った。  
以上で、第3回旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会を閉会する。